

■出題傾向

高等学校の数学は、中学校で学んだ数学のしっかりとした基礎の上に積み重ねていきます。したがって基礎が固まっていないと、今後の学習は成立しません。そのため、入試ではどこまで基礎学力を身に付けているかと、それを応用する力があるかを確かめる問題を出題します。

なお、中学数学のほぼ全範囲から出題されます。大きく分けると次のとおりです。

- ・数・式の計算、一次方程式、二次方程式、連立方程式、因数分解等、基本的計算力を確かめる問題
- ・関数とグラフ、確率等についての基本的な理解を確かめる問題
- ・問題場面で方程式、関数の考えが使えるかを確かめる問題
- ・図形では、線分の長さや角の大きさを求める問題と、三平方の定理を含めた図形の計量の問題
- ・箱ひげ図や代表値の読み取りなど、データの活用に関する問題
- ・応用力を確かめるための問題

■解答分析

基本問題についての正答率は高かったものの、根号の処理など計算のミスが見られました。文章問題や関数、相似の問題になると、得られた情報をうまく活用できていない傾向が見受けられました。

■学習アドバイス

教科書を中心に、中学校で学習した全範囲を偏ることなく復習して、基礎学力・基礎計算力を十分に付けておくことが大切です。特に気をつける点は以下のとおりです。

- ・数式の計算を作業的に行うのではなく、意味を十分理解し正確にできるように練習しておく
- ・基礎となる用語や記号の意味、定理、公式等を十分に理解して使えるようにしておく
- ・文章問題では、条件を整理し立式できるように練習しておく
- ・図形問題では図を描きながらじっくり考える習慣をつけておく
- ・答えを導くための計算過程を日頃から書く習慣を身につけておく